

豊郷町隣保館だより

2025年9月26日発行 豊郷町隣保館 ☎0749-35-0611 No.258

豊郷町 人権学習講座

父の無念を晴らすため
名誉を回復するため
家族は最後まで
戦いたと思います

題 「無実を訴え 服役中に亡くなった父の無念」
講師 日野町事件 再審請求遺族 阪原 弘次さん

「あまりにも悲しかった。
悔しかった。あまりにも
無念でした…。」

『無実を訴え 服役中に亡くなった父の無念』

＝ 一日も早い再審無罪の決定を願う ＝

9月18日(木)午後6時半から「第3回人権学習講座」を開催、約50名のみなさんの参加がありました。

1984年の「日野町事件」で、無実を訴えながら服役中に亡くなった阪原 弘次さんの遺族である弘次さんからお話を聴き、当時の想いを含め、皆さんの捜査や新証拠などから、改めて無罪を再確認することができました。感想を抜粋して紹介いたします。

・とても興味深い内容でした。それと同時にショックを受けたのも事実です。一人の人間がこのような冤罪で一生を台無しにしてしまうことになり何とも言いようのない思いになりました。再審無罪を心から願います。

・こんなにもつらい出来事を話してください、感謝しています。無念の一言に尽きます。一体、人の人生を何だと思っているのか、無念という他に表現する言葉が見つかりません。絶対にこんなことがあってはならない。

・熱のこもった父の無罪を訴えるお話に心を打たれました。無実の人を罪に落とす「冤罪」は、最も非人間的な人権侵害です。阪原さんに心からのエールを送ります。

・近くに住んでいながら知らないことが多く、家族の方々の無念さがよくわかりました。一日も早く無罪を勝ちとつていただきたいですし、心から応援していきます。

・家族が父親のことを信じ、周りの人たちの支えがあつてここまでこられたことがよく分かった。今日のお話にはなかつたのですが、おそらく周りからの冷たい言葉や視線などもあったのではと思います。「人を信じる」、このことを今日の場で強く感じました。

今一度、『命の尊重は人権の基本である』ということをして「日野町事件」を通して再確認しなければと思います。

